

七尾市農業委員会だより

2016
秋

平成28年11月1日発行／発行 七尾市農業委員会／編集 農業委員会だより編集委員会
TEL 0767 (53) 8440／FAX 0767 (52) 7765／E-mail:nougyouinikai@city.nanao.lg.jp

No.46



大型草刈機で除草作業

再生された白ネギ畑



山林化した農地の木を伐採し、薪として活用

遊休農地発生防止・解消に協力を!

近年、農業者の高齢化や担い手不足などにより、どこの地域にも遊休農地、耕作放棄地が増えています。既に木が成長し山林化、草刈が出来ないことから笹や雑草が茂っているところが見られます。

耕作放棄地を再生利用するような補助金を活用した取組も行われているが、なかなか解消されず耕作条件の良いところさえ、放棄地化しているところがあります。

耕作放棄地や遊休農地を解消するには、地域の農地所有者、耕作者、次世代を担っていく農業者、新規就農者が協力し、地域の農地を守るために取り組むことが必要であり、地域農業の再生にもつながっていきます。

平成28年4月1日から「農業委員会法」が改正され、遊休農地の発生防止、解消による農地等の利用の効率化を行うことも、農業委員会の重要な役割のひとつとなっています。

農業委員会は地域の方々とともに考え、農地の有効活用や担い手の確保、農地集積等の活動を行っていきます。

・先進地視察研修（長野県伊那市方面）

平成28年4月1日から農業委員会法が改正され、大きく制度が変わった。七尾市は、来年の7月23日に任期満了であり、翌日より新制度がスタートを切ります。

それを踏まえ、7月11日～12日にかけて、先立って新制度に移行した伊那市農業委員会に研修をさせていただいた。

農業委員と農地利用最適化推進委員の選出については、法に基づき、農業者数や農地面積などの事情を考慮し、地域性も活かしながら定数を策定していた。

農業委員会の総会においても案件を地区で協議し、総会に諮っており、農業委員と推進委員が常に意見を交換していることがわかり、関わることの重要性を学んだ。

また、農業振興の調整を担う伊那市農業振興センターは、農業者や農業関係機関、市などが互いに連絡を密にし、問題を二歩一歩解決し、農業の維持や発展を目指すとても重要な役割を果たしていることがわかった。

研修を通して今回の改正の趣旨を受け止め、七尾市の現状を踏まえ定数等を考えていかなければならないと思った。

そのほか、体験農場「みはらしファーム」、「大王わさび農園」を視察、「みはらしファーム」では、個々の農家が集まり、収穫体験、産地直売など農業を観光の一部にして収入を得ていた。

地元の農家、新規就農者も参加する、新しい農業の形の一つであった。

今回の研修は新制度に向けて、また、新しい農業のあり方について有意義な研修をさせていただきました。

・平成28年度農業委員会研修会

農地パトロール出発式

8月4日、羽咋市のコスモアイル羽咋において、能登地区の研修会が開催された。

酒田市の農業委員会会長の五十嵐氏の「農地利用最適化に向けた取組について」の講演や石川県農業会議の担当者による、「農地パトロールの実施」や「農業委員会の業務」等の説明があった。

研修会後、農地パトロール出発式が行われ、遊休農地の解消や発生防止と優良農地の確保、農地の利用促進に向けた取り組みを一層強化するために全員でガンパロー三唱を行った。



頑張ってます!

《part 23》

自栽培野菜で地域を元気に

中島町浜田 松田友也さん



新規就農1年目、水稲、白ネギ、イチジク、梅を栽培している。

きっかけは、就農16年目の父である、松田武氏の農業への取り組みをみて、自分でもやろうと思い決意しました。

自分一人ですることは大変と日々感じてはいますが、それがやりがいに通じてます。

今は水稲中心ですが、冬場に採れる野菜の収穫、イチジクや梅を使った加工品の製造など一年を通して、出荷が出来るようにしていきたい。

そうすることにより、収入の増加につながり、雇用も生まれると思います。

特にこだわりは、地元野菜である中島菜であり、たくさんの人に食べてもらうために、粉末、ペースト、塩漬け等を活用した商品を作っていきたい。

また、抱える労働力の減少、事業



季節限定で能登がきと自家栽培の野菜を使った料理が作業場で楽しめます。

の継続性、里山里海の荒廃といった基本的な問題に危機感を持つ、農業・水産業の若手生産者が料理

人とつながり新しい価値観を生み出す「Third Kitchen Project」事業が七尾市で始まった。

そのメンバーの一員として参加している。

ジャンルを超えたメンバー、料理人によって、自分の栽培している農産物がどのように変化し可能性が出てくるかが楽しみである。

この機会を大切に、より良い農産物の栽培を心がけていきたい。



七尾市自治功労者表彰 農業委員の福田浩氏が受賞

平成8年7月から20年以上農業委員として在籍し、農地基盤となる優良農地を守り、農地の有効活用を図るべく、農地移動や転用について慎重に審査し、適正な業務に繋げるよう貢献したとし受賞しました。

「この受賞を機に農業委員として、遊休農地の発生防止、解消、優良農地の確保など、なお一層地域や農業者の皆様方のお力になれるよう努力していきます。」

福田委員



七尾市白浜町 福田 浩 氏

【ご存知ですか】

★農地利用状況調査（農地パトロール）

農地の公的管理機関である農業委員会が、食糧の生産基盤である優良農地の確保と有効活用の促進を図っていくことを目的として、毎年1回（平成28年度は10月中に実施）七尾市内にある全農地の利用状況について調査を実施するもの。

★農地利用意向調査

農地利用状況調査の結果、耕作されていない農地（遊休農地）について、今後の管理の仕方の意向を調査するものです。（平成28年度11月末発送予定）

意向調査内容 ・農地中間管理機構に貸すことを希望する。
・自ら受け手を探す。
・自ら耕作を再開する。

※遊休農地とは

- ・現に耕作が行われておらず、かつ、引き続き耕作の目的に使用されないと見込まれる農地
- ・農業上の利用の程度がその周辺の地域における農地の利用の程度に比し、著しく劣っていると認められる農地

★農地中間管理機構

農用地を貸したいという農家（出し手）から農用地の有効活用や農業経営の効率化を進める担い手（受けて）へ農用地利用集積・集約化を進めるため、農用地等の中間的受け皿となる組織

★課税強化

意向調査の回答で「自ら受け手を探す」「自ら耕作を再開する」と回答し、6か月後、その行為を行なわないで遊休農地を放置している場合、勧告され、固定資産税が1.8倍になることがある。

※勧告前に中間管理機構に貸付けの意向を示したり、耕作を開始すると固定資産は課税強化されません。



遊休農地（例1）



遊休農地（例2）

【ご存知ですか】に関するお問い合わせは七尾市農業委員会（53-8440）へ

農業委員の活動

10月1日にミナクル前広場を会場とした七尾市民健康福祉まつりに参加しました。今回で2度目になります。福田会長が作る減農薬の新米と坂尻委員の自家製「うめ」と「しそ」、「わかめ」の3種のおにぎりを300個作り、無料配布しました。

「減農薬で作られた能登米の新米おにぎり、試食いかがですか」という女性委員の声に「おいしそう」と集まってきたお客さんたち。その場で頬張る方も。「塩加減も良くておいしいお米だね」と賛辞もいただきました。

七尾市農業委員会



「安全で安心なものを食べてもらいたい」「能登のお米を食べてもらいたい」との思いで握られたおにぎりは、天候も良くお昼前には無くなってしまうという大盛況でした。



テーマ「祝七尾中学校」

古代米アート

お披露目会

本宮のもり幼保園の園児が高所作業車の上から「古代米アート」を見ました。毎年、田植えや草取りなども一緒に行っており、自分たちが植えた苗がこんなに大きく、こんな色合いになることにびっくり、時折歓声も聞こえ、とても喜んでいました。

山田委員は、除草剤、農薬を与えないため、自然との闘いは大変で思うような色合いになりませんでした。子どもたちの笑顔を見るとやってよかったと思ひ、とても楽しいお披露目会になったということでした。



農業委員会申請事務処理状況

平成28年1月～9月末現在

区分	件数	面積 (㎡)
農地法3条所有権移転及び利用権	33	64,345
農業経営基盤強化法(利用権)	156	486,124
農地法第4条(農地転用)	5	1,463
農地法第5条(権利移転の伴う農地転用)	10	5,113
農地法第18条(利用権解約)	178	109,802
計	382	666,847

農業者のための年金

農業者年金

に加入しましょう!

全国農業新聞を購読しましょう!

経営と暮らしに役立つ情報がいっぱい
の農業専門誌

※発行日 毎週金曜日
※購読料 一ヶ月700円
年額8,400円

編集後記

夏の暑さから秋の涼しさにかわり、皆様方には稲作の収穫も終え、ほっとしている時期ではないでしょうか。

これから、来年度に向けての作業や秋、冬採れ野菜の収穫などまだまだ忙しいと思います。

これから。寒さも厳しくなります。風邪などを引かぬよう健康には十分気をつけお過ごしください。

島本編集委員長

お問い合わせ、お申込みは農業委員会へ
☎ 53-8440 FAX 52-7765